

学生国際協力団体 CHISE

(CHISE：三木香菜子、福本恵里、竹村佳穂、原田雅子、北川愛夏、竹田凌輝、中井逸斗、乾美紀)

1. CHISE の設立の歴史

CHISE (チーズ) はラオスの山岳地帯の子どもたちの教育環境を改善する目的で、2009年に神戸市立外国語大学の学生によって設立された学生国際協力団体である。その中に、多くの県大生が含まれており、環境人間学部の乾先生が顧問を務めている。CHISEは、Children, Hope, Immortal, Smile, Educationの頭文字を取ってできた言葉で、「チーズ」と読み、『「はいチーズ」の一言で世界に広がれピースの輪!』をコンセプトに、活動を展開している。

具体的な活動地は、ラオスの山岳地帯に位置するルアンパバーン県の郊外にある農村である。これまでCHISEは2011年1月、ホエイカン村に学生国際協力団体「夢追人」と協力して1校目の校舎を建設、その3年後の2014年3月に、近くのホエイペン村に2校目を建設した。2校目は、村人と費用を半分ずつ出し合い、村人と協力して建設した。そして、2017年2月にコックハン村に、同じく村と費用を出し合って3校目の校舎を建設し、2019年2月にはホエイカン村に幼稚園を完成させた。村人とともに校舎の完成を祝い、子どもたちと共に過ごす時間は何事にも代え難いひとときである。



図1. 完成したホエイカン村の幼稚園
(2019年2月)

CHISEには現在、環境人間学部の学生をはじめ看護学部、経済学部の学生が多数在籍しているが、神戸大学、追手門学院大学、武庫川女子大学など様々な大学の学生とともに活動を実施している(2019年2月現在、メンバーは15名)。

2. 具体的な活動の内容

CHISEは神戸の元町、三宮や六甲を拠点とし、毎週日曜日の午前にミーティングを行っている。ミーティングでは、主に次に行う学校建設について話し合う機会を持っている。そしてラオスの村で行う教育支援、現地訪問の際に実施する授業の内容や、村人や学校の先生に対して行うインタビューの内容などについて話し合いを進めている。

またラオスのことを知るために、姫路に住むラオス定住難民のお正月パーティーに参加するなど、姫路市に住むラオス人との交流活動も積極的にやっている。CHISEと姫路市との関わりは深く、3年前からSEN姫路ゾントクラブより支援を受けており、ゴールデンZクラブの会員としてゾントクラブの全国大会、地区大会にも参加し、地域との交流も深めている。

ラオスへのスタディーツアーは年に2回、8月と2月に行っており、現地では、子どもたちと一緒に楽しく遊んだり、インタビューで得られた結果をもとに、村人や学校が必要としていることをまとめ、今後の支援に繋げている。

日本での活動として、校舎建設のための募金活動や神戸市外国語大学の学園祭(外大祭)への参加、中学校や高校での講演活動を行っている。街頭募金や、地域の篤志家から受けた寄付金は、全てラオスの教育局を通じて支援している村に送金している。学園祭では豚汁や焼きうどんなどを出店し、大きな利益を上げることができた。これによって得られた利益も同じように村への支援金として利用している。



図2. 三宮での募金活動
(2020年2月)

講演活動は、CHISE に興味を持ってもらうこと、CHISE についてより詳しく知ってもらうことを目的としている。

今まで講演を行ってきた学校は、姫路市花田中学校や神戸市鈴蘭台高校などである。神戸市立青陽養護学校や姫路市立花田中学校は、生徒会の活動や作業療法の授業の一環として作成した手作りのノートや生徒から集めた文具を寄付してくれており、それを現地に届けるのも CHISE の役割である。このように、ラオスの子どもと日本の子どもを結ぶ活動も積極的に行っている。

2019 年度は環境人間学部で実施された「キャンパスシンポジウム」で副代表の三木香菜子がラオスでの活動を報告し、五百旗頭真理事長をはじめ大学の理事・教職員の方、そして地域の方々からも多額の寄付を頂いた。

3. 現地のラオスの子どもたちとの交流内容

ラオスでは、様々な道具を使った遊びや衛生の授業を行っている。毎年 CHISE が設定している目的と、子どもたちに楽しんでもらうという 2 点を照らし合わせて授業を考え、ラオスの子どもたちに披露している。直近では、静電気を使った電気クラゲ、空気を使った空気砲、ビニールパラシュート、シャボン玉を用いた理科の実験を行った。他にも折り紙を作って遊んだり、運動会を開催するなど、日本の枠組みで言えば、図工や体育、社会などの授業を幅広く取り扱っている。



図 3. 理科の実験の様子
(2019 年 2 月)

これらの授業を行うことは、ラオスの子どもたちが普段の授業では学ばないことや新しい知識を身につけ、想像力や発想力を活性化させることにつながっている。毎回のスタディーツアーでは子どもたちに手洗いや歯磨きなどの衛生の授業を行い、それらが子どもたちに習慣化されることを目

指している。歯磨き指導では、子どもたちに歯磨きの重要性や、しなかった場合のリスクなどを教えたり、一緒に歯磨きをして細かい指摘をしながら正しい歯磨きを教えている。この習慣は守り続けて、ラオスの子どもたちも、日本の子どもたちのように正しい衛生の知識が常識になるように努めている。なお 2015 年度から毎回持参している歯ブラシは、大学近くの英（ハナブサ）歯科から寄付を受けており、その時に歯磨きや衛生教育の方法についてもアドバイスをもらっている。姫路とラオスの村をつなげることも CHISE の重要な活動である。

4. 今後の活動に向けての課題

2019 年 9 月に建設を決めたルアンパバーン県北部のプークー村は、地域の中でも貧困村であり、村と建設費を折半して学校を建設できない状態であった。新しく校舎を建設するためには、合計で 210 万円必要であるが、CHISE が持つ資金では到底足りないため、初めてクラウドファンディングに挑戦した。校舎建設を 2 期に分け、第 1 期目の建設費用目標額を 100 万円に設定し、クラウドファンディングを開始したところ、2 カ月間で目標額を達成することができた。この様子は神戸新聞（姫路版）にも掲載された。



図 4. 活動に関する新聞記事
(2020 年 12 月 25 日 神戸新聞姫路版)

今後はクラウドファンディングや街頭募金で集めた資金を現地に送金し、自分たちも現地に足を運び、村人とともに話し合いをしながら信頼関係を続け、5 校目（プークー村）の学校建設を進めていく予定である。